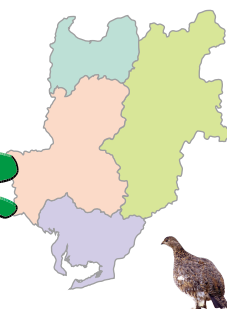




広報

中部の森林



中部森林管理局

〒380-8575長野市大字栗田715-5

☎050-3160-6513

<http://www.rinya.maff.go.jp/chubu/>



平成20年度中部森林管理局決算概要の公表 発生ベースで収入超過

(P2に関連記事)

主 な 項 目	○ 平成20年度中部森林管理局決算の概要 P2
	○ 地域との連携 P3~4
	○ 風景紀行 P6

平成二十年
度
中部森林管理局決算概要

去る九月十五日、平成二十年度中部森林管理局の決算概要を公表しました。

平成二十年度の決算は、森林の公益的機能の維持増進、地球温暖化防止対策に積極的に取り組むとともに、財政の健全化に努めた結果、収支では二十四億五千万円の収入超過となりました。

また、損益計算上では、二十七億四千万円の損失となりました。

◆発生収支

収入のうち、事業収入の大宗を占める林産物等収入は、住宅着工戸数の大幅な減少に加え、長引く木材価格の低迷等があったものの、間伐材の積極的な売り払いにより、前年度より九千万円増の三十四億三千万円となりました。

林野等売払代は、大型物件が少なくなったものの、余剰敷地の積極的な売り払いにより、前年度より二億七千万円増の六億七千万円となり、自己収入全体では前年度より三億六千万円増の四十七億九千万円となりました。

一方、一般会計からの受入金は、治山事業の事業量が平成十九年度に比べて減少したこと等から、前年度より二十三億四千万円減の二百三十八億九千万円となりました。

また、新規借入金は五年連続してゼロとなり、借換借入金は、前年度より五億二千万円減の百十億六千万円となりました。

支出については、職員数の適正化等に努めたことにより、給与経費等は前年度より一億五千万円減の六十九億八千万円となりました。

森林環境保全整備事業費については、地球温暖化防止等に資する森林整備を推進したことにより、前年度より八億二千万円増の五十二億九千万円となりました。

治山事業費については、平成十九年度に比べ、事業量が減少したことから、前年度より三十六億九千万円減の百五億三千万円となりました。

借入金に係る償還金・支払利子は、前年度より七億円減の百二十二億九千万円となりました。

以上の結果、四百四億六千万円の収入に対し、支出は三百八十億一千万円で、二十四億五千万円の収入超過となりました。

◆損益計算

減価償却費の減少等により、損益計算上の損失は前年度より六億二千万円減少して二十七億四千万円となりました。

損 益 計 算

(単位:百万円)

費 用(24,472)	収 益(21,730)
経 営 費 5,260	売 上 高 3,490
治山事業費 13,154	林野等売払収入 670
一般管理費及び販売費 1,535	財産貸付料等収入 595
減価償却費 3,084	一般会計より受入 16,165
資産除却損 249	森林保全等財源受入 (2,718)
支 払 利 子 925	治山事業費財源受入 (12,446)
雑 損 265	利子財源受入 (1,001)
	地方公共団体工事費負担金収入 708
	雑 収 入 101
	雑 益 1
	本年度損失 2,742

発 生 収 支

(単位:百万円)

収 入(40,465)	支 出(38,015)
林産物等収入 3,430	給 与 経 費 5,548
林野等売払代 670	基幹作業職員給与 1,434
財産貸付料等収入 595	業 務 費 1,819
雑 収 入 102	森林環境保全整備事業費 5,289
一般会計より受入 23,898	林道施設等災害復旧事業費 68
事業施設費財源 (7,558)	そ の 他 1,034
公益林等保全管理費財源 (2,564)	治山事業費 10,537
利子財源 (1,291)	償還金及び支払利子 12,286
治山事業費財源 (12,485)	収 支 差 2,450
地方公共団体工事費負担金収入 710	
借 入 金 (借換借入金) 11,060	

金額は、それぞれの科目で四捨五入しているので合計金額とは必ずしも一致しない。

防災週間行事

局総合防災訓練を実施

【企画調整室】 防災週間（八月三十日から九月五日）にあわせて、九月一日の「防災の日」に局の総合防災訓練を実施しました。総合防災訓練では、警戒体制時及び地震発生時を想定し、それぞれ警戒本部の設置と災害対策本部の設置を行い運営するとともに、各署等との伝達訓練を行いました。

局庁舎が被災した前提とし災害対策本部を屋外に設置し、災害対策本部長（局長）の指示により各災害対策班の役割を確認するとともに、ヘリコプターの出勤依頼など具体的な対応をシミュレーションしました。

また、情報伝達訓練では、東海地震に係る地震防災対策強化地域になっている南信森林管理署と愛知森林管理事務所において電話線などが使えないとの想定で衛星電話を使い災害情報の伝達を行いました。

最近では異常気象による局地的豪雨が各地に相次いで発生しており、災害はいつどこで起こるか判りません。普段からの備えが大切であることを改めて確認できた訓練となりました。

最後に、地震等の発生地域で電話が規制され通話ができない状況では、災害用伝言板などが有効です。毎月一日に各社の携帯電話で体験ができるようになって

いますので、ご家族を含め是非一度試してみることをお勧めします。



情報伝達訓練を実施している参加者

地域との連携

みんなで森づくり

「伝統工芸の森」継承に汗を流す

【南木曽支署】 八月二十五日、「南木曽伝統工芸の森」（南蘭国有林六〇九林班）において、「南木曽伝統工芸の森育成協議会」の構成員である南木曽ろくろ工芸協同組合、蘭桧笠生産協同組合の他南木曽町、当支署の計十二名が森林整備作業（下刈）に汗を流しました。

「南木曽伝統工芸の森」は、南木曽町の工芸品であるろくろ細工や桧笠、サワラ桶の関係者からなる南木曽伝統工芸の森育成協議会と当支署の間において、森林整備を通じ、木の文化の継承を目的と

し、平成十八年に協定を締結したものです。

約三畝の国有林にトチノキ等四百本が植樹されており、今年で四回目の森林整備となります。

当初は、他の構成員やボランティアの方の協力も得て行うこととしていましたが、予定した日が悪天候で順延を余儀なくされ今回の実施となりました。

当日は、好天に恵まれ、背丈並みに伸びた夏草を刈り、参加者からは「材料になるには二百〜三百年かかるが、私たちの後に続く人のために木を育てていきたい」、「最近ほろろ細工の材料確保が難しくなっている。こうした活動が続く、森の木々で伝統工芸品がつくれるようになるばいい」等の声が聞かれました。

また、地元新聞社も取材に訪れ、記事として掲載されました。

今回、下刈をした林分がろくろ細工



参加者が南木曽伝統工芸の森看板前で

などの伝統工芸品の材料として利用できるようにするには長い年月がかかりますが、このような活動を協働し継続するなかで、より多くの人々に「木の文化を支える森づくり」について情報発信していくこととしています。

大学生が森林ガイドに挑戦

【南信署】 九月六日に、伊那市水無山（標高一、二三七メートル）において、信州大学の学生十名と地元公民館が共同企画したハイキングを、地元住民一八名の参加者で開催されました。

参加者は、小学一年生から年配の方などの幅広い年齢層で、山頂までの急な上り坂を、大学生からアブラチャンやミズヒキなどの植物の解説をしてもらいながらハイキングを行い、山頂で記念写真を撮影して、全員笑顔で下山しました。

この企画は、地域・大学生・森林管理署の三者の交流を深めることを目的とし、その手法として、昨年度から大学生の企画・運営がスムーズになるように伊那森林事務所森林官が全面的なバックアップを行っており、水無山で実践的な森林環境教育の場を提供しています。

当日の朝、大学生は緊張した面持ちでしたが、下山した頃には自分たちの企画に自信が持てたのか、非常にさわやかな表情に変わっていました。

参加者からは「是非続けてほしい」と